# 源氏系圖

先帝

きりけれ乃
院の御子れ
よみむしの
みくとなる

式部卿宮

第一皇子
もしき兵部をと
とえんの御さま
式部卿

薄雲女院

源中納言

母あし大臣女
あらそう御
のまきに
兵衛督
わかるれまきに
中納言

若君

朱雀院
五十御賀
れしかるに
皇廉童
まひし人
なり

わきれなりしとおもふに
あしかるし御をとらせ
人なし家

中將

九曜文庫

源氏宮　五文

母ハ北ノ方となきあ
ふ北ノ文衣ニ而しや
あんかとし
六条の御とき上ハ御
いりて女三宮をうん
給ひ給ひ給ひ給ひ
うせ給ひ給ひ給ひ
ニ而 永年後ニ也

冷泉院女御

母ハ梅察大納言女
をとゝしのまきに入内

前坊

右衛の御
と乃ふ名を
いふ

妹好中宮　弟宮北
御これ
なり

母六条御息所
あふひのまゝ北ニ出さ給
の御ニよりてさう来

紫上

ほかれし女御

の御きまさいふ事
きち給ひし　十四
ニ御ほうし北ニ北ニ
御くらゐゆつりにより
文ニかへりのゆくを
給ふあるせに源氏
北さしてて入内相御
かと給ひしきをとよ
中宮に御ち給ひの事
乃御きに皇太后宮に
あうらせ給ふ六条院や
なひむまゝあきれて
ひ志ゆ給ふあるせ北
左方志給ひ御なり

あ御さうとゝ御さ御や
きとしさむ筆よみ給ひ
し御ふなり

そうへにはいくおれ給ひにされ
むさにやしなされて十ちうかて
小山にをもとし　六条院
源氏北中将ときこしうき
ましやえまゝなひ中国ひし
たよりまの山ほとゝて　なのに
見給てむさき北の姓ありとに
かよへらるゝ家ろ北むろ申し北に
称むらろにのらきとせく
むれのあきらせてのち二条
の院にむへるゝ　おれし
そてらまへるゝ　これのまき
やまひよりて　六戒をうく
へのり北まきにうせ給ふ六条
院ニ云へれ給事を御思
ようとてなり　あまりの
御中に出へれ給ひいとあるを
かうき御ちきりなるをもの

## 大上天皇

はしきさ紀なり
きりはたのまき
より御くるみ
ひさしく其も
ゝせ給あひの
ゐきよくら井を
其家ふゆつりて
おりさせ給はり
木の御きの書
十月四日かれさせ
給きりつかの御
門とり右院とし
よゆしらせ給と

## 朱雀院

第一皇子
母弘徽殿大后
二条大政大臣女
きりはたのまきよ
春家ふ其ら給
あひのまきよ
ゆつりをく事て
位にはきたゆつ
くしの事に位
春家に於何事て
おり井させ給ひ
のまきに御くしを
ろして小しゝ山

## 今上

母承香殿女御
左大臣女
第一皇子
あうしのまき紀に
二歳と見しこと
みを居くしの
ゐきに二月廿日
春家に其ら
給柳うえの事に
御元服とり紀の
まきにくらす
にはき給

## 春宮

そくあしの中家
六条院女御のまき
に其むしゆゝ御紀し
きゐきに於にさせ給

## 二宮式部親王

そくお紀しまれの事
紀の下事てよむまれ給
かわる中将のまき紀に
ゆゝきりのおとゝ乃
中君を通て六条院
のさんてむとゝやそ
さしらすし
給

## 女一宮

## 女二宮

はし一条御息所
ちゝ見とまし
山にうろひ給
しはわるれ
まきにかしも木
右衛門の小方
にあり給ひ見
せしくれちたく
ゝや其のまゝ小
其家給ひたる
はしに御息所を
のにまゝ給けり
こゝろるしはゆゝ
きりのおとゝに
其ゝ給

## 白兵部卿親王

やとの木にむまれ給
若君
かわる中将のまきに
元服さて兵々に
まむれむしさ紀の
うへのやしるひさそ
さつり給し　この家
なるまおわりも紀伐
同へ人さゐるとそく
いなくいみしくも
給し給ふ御こゝろ
のいろめりさにゆ
さきはなりし

乃見てしまうつり
其事を給山の
みとゝかし
よゆしらせ給
こと云事
川事のまくしの
かみさゝのまて
とよみ給ひし人
なるも

九事　寺つ祈打
まわりし　を給
ゆゝ　なる給し
人なるも

かとまきたまふ
ゑのあるを
とまへ給人なり

かわら中将の
まきに六条院
まもりて給
おちけのこゝ物也

右衛門督二郎
家の御事
なりひとされし
こゝろおちたる
なるべし、いれ
人なり

小野の家とし
二郎内親王
母先代の源氏
の家なり所の
まゝ給ふ二郎に
なり給ふ

梅のまゝひとしあ給
き

四宮
母文衣
ゆゑきりの御とし乃
ゆゑのひゑりあるし
給し以前三家に
まゝひをされし人

五宮
母春宮におなし
かわら中将のまゝ給ふ
乃里ゆゑの日ゆゑき
の大将の御とし
ひとしくる所に乃りて
さらに給し人

西さまちゝ院
の御心さしこと
まて六条院ま
ひたり給そのうち
かしき木の右衛門
に志のひてあひて
かわら大将をかけ
八月十より所里
将事あらはれ
ていく いそねの
るとこゝろにし
よりとよく候さ
物に なりひとく
かしき木のまき
にあまたになる給
ちゝみをとりまき
かれしく志給し
女三家なり
花さとくにハ
二月たり 此
あをやさのこ
ひかにしこ里て

中務宮
母れなし
やとり木に大家の
御るやこのゆゑき
女家とさいり給し人

常陸宮
母文衣
ゆゑきり此大将乃里
はみのくりあるし
給し日昔ア宮家に
まゝひをされ志給し
人四家のとし

一郎宮
母同春宮
ゆゑさきのくにや
志るされ給三条院

うくひものえも
まもやくこと
まめへく云
ゑと いへり

女四宮

乃ゑ龍のゆらむうしに
御さつひうくしもすまも
給かわる大將なのこそ
さつりてこころそしに
なし紀

女二宮　尤大臣女
母ふち川なの女御
かわとり紀まきに
内のさためまてう
なる大將をむと
とり給へり
龍香殿ゆら同
御うちなへてまハ
あしさりあれハ
大將ゆゑやむと
なく思ひきし　ぬるを
一京ゑ紀なのかなし
御おもりをふそなし
うひ給へしとえし

女三宮
母同春宮
龍ひき給ものに
三位弟子

六条院
弟二皇子
母きりつ子の
文衣ひかゑ
ハきるを法の
むさ御給三歳
まてそくまとく
れ給おなし
年ゑ御まて
六まてはかるれむるをくれ給七
歳まて御ふへくしは　その年御代

真人大臣
前将軍太子女
母あふひのこ
あふひのさ紀に
むさ御てやうて
そくまをくれ給
えとそくしの事
に内春乃宮殿上
をゆゑ紀まてよ
元服をてくりの
なる大学のみ所
いりて寮試をこく

右衛門督
母不詳乃里ゆゑの
日出仕せし人

中納言
母同おなし
出仕せし人

の姓を給はりて、そのまゝ人になる事
給十二にて元服活源氏東乃
庇に有此事そのよ左大臣の事に
聞て給むことりのさいしきを
御かほ人へ入る事なれも来き乃
すきに中将もしらの賀茂ま紀に
正三位御賀のまひの意中将
をかのとし 同ま紀に宰相
中将如元あまひの聞きに年廿二
左大将なりしのゝ乃事きこ
えくれ聞のまき乃三月に
津ゆくにの聞ゆくへおむ
き給次の年乃三月にそり聞
のあらしゆくへ御ひ給文の
そし乃八月に御門の御経絶
によりてゝめしくされ給ふ
とれくものくれ料にあらさ
まるを加ものなり此大納言なる
給ふ此法にしの聞きに内

そのよし乃五郎
にいろゆくて出仕
次の年二月に文
章生に補ス同
とし乃嫁の命月に
冠をさしてそりて
侍従になる玉
ろうれ此ま紀に
権中将ゆきにしかれの
事に右近大将
御きのとし 権
大納言まゝの年
左大将にてむに
かわら中将の事に
右大臣大政もとの
とし そきかハ
のまきに左大臣
ゆきりの大臣
といし

源宰相中将
母三条上致仕のおとゝ
乃むすめ人をれハ就人
少将登いひき事を
かんの聞きに三位中将
如元冷泉院乃今御
にこゝろ法らせし人

侍従宰相
そしめに白兵て文
乃そ法をに聞くて給
御と母をし人

頭中将
いまゝ小の六の衆
兵御乃文かよひ
そめ給ひし 秋ろ

大臣うれ事の
ま紀に従一位にしくるを此ゆくて
こゝのうちにいていり給ふ事ゆへの
聞きに大政大臣同巻に忠仁乃
例になるまゝへて准三文のとし
をくるさる護持仍乃へきゝ
せ事くるを例にしてこれ
おれ給ひて者らのくらん
乃まきに臣下の例をあら
を給ふ 事ゝ とへて大と
天皇乃そ位をさへ給ふ年
卅九ひらかれ給ふとし
かほる中将乃さ紀に見て
新きへ入まるを
さ能くて母家衣かれ給しかハ
御門のまゝと給ふてやくをとる
あまみとゆをき給て春家に
そてさつりて 胃められを
御う新みなきこと心にて此志を
給ふ 母のこゝろ給あるへきとし

あかれハかきに
ことそうそやゝ
よへ給ひし人
なる

碧皇后宮
入道前播磨守女
母あしれと
みをはてしの事
三月十六日あさし
のうしまてむまき
給松花のまきに
母うへにくして京へ
のおるとくうるの
はとにまゝ給し
ぬくまゝ此事
に六条院へむへ
そてさつりて
むしさきの上や

よひまきてとりし人
とやハ此女ゆ

右大辨
乃里ゆゝの日出仕をし
人

権中将
同

左中弁
事をうえ此三月にて
おとゝ乃御と母にて
むろしの内侍のつゝん
此御もとへ まゝてゝる
し人

[illegible]

一品宮
同朱雀院
[illegible]

[illegible]

四位女将
[illegible]

蔵人兵衛佐
[illegible]

侍従
[illegible]

春宮女御
母同宰相中将
[illegible]

女二宮
母同朱雀院

斎院
同
[illegible]

菫右大将
母二京内親王
朱雀院女 三宮
[illegible]

中君
[illegible]

三君
母藤典侍
参議惟光女

六君
母同宰相中将
[illegible]

乃女三文なるも

同事ハ三位ニ至て
宰相ニなる中将
如元者をかハ
乃事中納言や
ミりき乃事ハ
二川ニ権大納言
なるべく右近
大将代あし寸
御あり給ひ
そしさ弁よの
まゐひなしに
うちあるさひ
給へるなひ也
百丁乃なかまと
かなるもめし
なミこゆるまつ
そしし此すと
の松とよみ給人
そしかそそもしぬ
ワらうそかしなるまき
給ひき

白髪人宮のきさの
かしめになる

## 蛍兵部親王

母不祥
もとハ師女とき
うしき松と光の
給ハ朱雀院ニ葉
れとき多字ニ給
うと給ひなるよし
のまきニ見てうる
むかしのきさんに
心ひくしく人
ゑあるせさき物
あるせるとれそん
さやうし給なく
しゑのきあしぬむ
の思ひまゐしよみ
きさひし人なり

## 源三位

母前斎院
桜かえの中ニ
侍従ありし
ニ三位
おるしき
かくれ給
うくひき給き

## 侍従

桜かえれまきに
弟きくめんとも
又家の御つひて
もかんとりにたり
きされし人

## 頭中将

母藤大納言
しくしくより冷泉院
にさかひてあるも
れまきに兵衛佐右上
おなしき西きに
少将四位くらん人

## 菓守三位

母同
まもるれ中ニ二宗
家にさけりて御ひも
のしまそれ賞に
三位し給まゐ家ハ
よひ給しとも所や
ハ所ハ御ゆるひ

## 永香殿四宮

もみちの宮の御前に
[illegible]て 姉風京
まひし人なりそれ
なりも乃ちよきそ
給ひ[illegible]

## 佛宮

[illegible]
六条院そむ
さはのおとゝは
てくん人
るのをしれし
日[illegible]
[illegible]

## 宮御方

母まきそしらの
姫君父宮を給て
のち母きるんにくて
紅梅のおとゝの梅
宗の大納言をきそ
し御[illegible]
給ひ[illegible]
乃ふへなり給
むしは紅梅の
ひめ君ゆゆ

ふきそしらのおもひ
て朱さくの四宮に
さりてかれたるも
志成かれ中将人給
てうたひ[illegible]御ひ
そめてさく ひきみめ
うたて かし人

## 典侍

母同
白音は宮[illegible]給
ひあねきへまうつ
給しかは二宮[illegible]
かよひ給をやしい一宮
宮の女房御[illegible]
[illegible]
乃[illegible]

## 宮治宮

母女御 大臣女
もゆゑ朱さく院乃
御[illegible]
世の中[illegible]
給へきさ[illegible]
給ひる[illegible]源氏乃御
世となりて[illegible]
さ[illegible]の御なりしひ[illegible]
[illegible]
京の御[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

## 総角大君

母大臣女
[illegible]
給父宮[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

## 通首中君

[illegible]
[illegible]
[illegible]

さしたれ生れてこころなぬ
よのまことそ御しひもし
給ひ年ころのこゝろの方
かれ給へれらいよ〳〵よ候
うれておとなひをのこし給
こ也ようてうたてれ家
と申才八の親王とも女をも
そしかの給ひ女んおかし女
よ候さら山まやとをこう
かれとよみ給しく人なるを

毋同

枕きみとう見れきて毋の
かたくれ給ひのちかれ
中納ひみちひきてまれの
家かたひ給ひのちあさ
ゆめとよくさまひの
御きは六条院は中国を
きまりさせ給さてあさ
御ゆさしまてあつしぬ
家ゆめうるのおとれむとは
なり給てそらひまやむ
これきことまてすし
給しはかれふ中納ひとき
そのひ給しおとはいかな
ひさかあり見しきくむ
川也給しは家かくれなき
うつうをあやしくおかし
て見うみましめて中ん
いひいて給ひ事とそ
者ひたゝなりくなれ
君とも

千習三君

毋あつまやの君前常陸守
のいけれよ中将君なりけ
きみこちのくふれかみは
くてくるしとき枕き
人とも あひくるしか
但えてれかり そうしか又
ひこちはなりてくるし
ま毋なれとめとさしか
年へてやとり木乃御き
はのかりてうちはまみ給
き中家とかしとを
きてさつりしをかれ
大将あかさりしかし乃
人の御ゆりれかたしの
なつしさは中川給ひて
うちはまるを中国を給
おとは白髪人文れ御ふ也

冷泉院

第十皇子 [illegible]

[illegible]

一宮

[illegible]

女一宮

[illegible]

女二宮

同一宮

[illegible]

新呂布式部宮

[illegible]

侍從

[illegible]

宮君

母同

とあるハ源氏乃相[illegible]
なるへし

## 桃菌式部卿親王

うしやうまきにうを給

## 女三宮

三条宮とも
母同所院桜政大政大臣 北方致仕大臣
あかひのこれ母母とくらを給てのち
御くしをうしてふちうらんにかへれ給

## 女五宮

あさかれ斎院のやしなひたく
こゝろ世のの家にもらん給

## 槿斎院

さう木のまきに賀茂乃いたきに
そら給あさかれのまきにうち
家の御ふくまでをう給ふ
みやにかくり給をその女五宮やし
なひ給ゆへにひとしくらに封せ
給ひるのまきに御くしをうし
給きしにこゝろにしてやこ給
志人なるもといあさかれのひめ
まうやさし源ないしのまき并
家にまゐひき志るくせしに
いくしぞおもしさよみ給し人
なり

## 桜政大政大臣

さりにかれのまきに
左大臣に源氏のあむ
ふく三給しひきいれ
の大臣なるも みをにて
くのまきに大政下
日なりて桜政三給
年六十二うしやうの
まきの正月にかへれ給
さう木のさまに致仕
の表をまゐり給
致仕のれとしかし
をしし此さ小なる
あきむしさ給のいろ
しあさをはと
給しくなり

## 致仕大政大臣

たゞ三条三家
左政大臣ひとし御ふくれ
三家なるも
きりつかの事にくらん人
乃女ねたく おくに頭
中ぬもみちの賀茂まき
正四位下御ふくれの
幸し
あかひのまきに三位
の中ぬ子をにくしの
海きに 権中納言うし
中のまきに 権大納言
なりまくに左を大将
をあんをとゝんの事
日内大臣にてきし
のみとく乃世の中の
事なかりし給

## 柏木権大納言

たゞ西一大下弟四女 そさあぬ四の君なり
をとゝんのまきに左を大将
そう孫のまきに 右を中将かく
つ東のまきに頭中ぬふらの
うしなかの海きに賀茂乃
まつりのにかい三給わるれ
きにまんき右衛門同まきの
下事に中納言のこと同事なる
二条家御とれもひこれて
やまひかきりなり 志をきし
を木乃まきに 権大納言になり
てをとるしうせ給ぬむしい
いそもう中ぬといひき四あ
そそらけるれしとよし
人なるも

藤大納言

紅梅右大弁　春宮亮

大夫

春宮大夫

藤宰相

右衛門督

中將

## 蔵人少将

以上二人ゆゑきり此ほとゝ乃きむ
そちあまた辰上志給しとき
あひてそうし人々ゆのち
乃と此ほとゝ以り

## む勝尚侍

ふきみたる風
のあし紀よをとゝ
なしとゝみし
人なるも

ちくゆゑ木のと　三位中将女
はくきて乃あめ此よるてしこと
いそれしい　こ乃きる人なりち
ほとゝ　郎中将とこまてしいろ
う乃母きる人よかりひてはてこ
いてきよれれいあさうゝ姫とまて
そて給しよいなりとゝあれし
母あとうゝ所てうせにきまいい

さくらよハかゝ事ゆゑ給すくしきる
ま并服君四といふとめ此乃ほこ
小武よくして行てへくる肥
前国ま此みけるふ大文事
とて肥後国ふあるあるほれ
こ乃君をきてをしてむくは
事くいひけるゆあらて小武うを
ま志かハ子まくあるけるゆえと
乃ま事にくしてまきく家へ
のかゝ志えしれ　九条所ゆ所
ま此みは給えしかへるくて
まくて給よそ此をへまいり給
あるふこ母きる人の女が右をま
さいりあいて行くしてかへり
給しかい右を六条院よかりて
きこえ給てやうてむくとうて
六条院よう志とゝ此町よ中文
とひとゝ此まちよ　まゆをきて
給ゆきは此まゆ紀よちくほとゝま
あくとしゝを給同と給えるゆ
きして尚侍よなり給御とう

さし乃人あまたいりしなるまひ
あそろの大将女そう弁乃きこえ
かたひてしたしくなり給
ましかは源氏ときく給ひゆるし
きこし給おりく給ひそち乃
はしなるも
なてしこ此姫きるんとそ子そひ
乃姫きみとりみゆかるのあいし
此かるんとし

## 弘殿殿女御

たゞ同かしたる事此権大納言
みをはらくし此まてに八月に
入内ありき也の大方也給
冷泉帝御乃女御ゆへ女御母

## 夕霧左大臣上

たゞ桜宴此大納言いまし此よ
第二女そのみゆのきり此ゆへ
くらきにきるんときこしこゝろ此
女君十四ときこしかはいまたを
さなくてとりにむかの女三宮
やしなはれてをらとしに於ける
御こゝろにたゞなくなる事給
あるを於てきく給ひ有い
なきことにおりしきらさてと
のへまてしきあしきなきの
きるんおほしかねてしたしい
きこゝろをかしを女君此
とおもしめ事

## 近江君

於さ明くあるかとしたち
おとゝ母也て給給ひ

[illegible]

八郎君

[illegible]

関白大政大臣

[illegible]

大納言

尼中辨

頭辨

[illegible]

麗京殿御

[illegible]

四位少将

[illegible]

乃ちかれゆゑ忍者何孫酒かしくてきた乃
ちん乃くるまに人を何者とも見ぬ故に
殿屋より人あきたいて給しまこのをくつをし
人くなるも

## 蔵人少将

ちゝおとゝふちかれ其れの家しも給しまゐ
乃御むかへまさいりてたるしそへてのいろる
程ゑかれ御をそそくゆ志人
乃きえのをきけ我むせそれそといえれしい
よのみか女乃おとゝなる案

## 弘殿屋大后

にきゝ院御ゑしあふひのまきにぎにきかさちて
まうれのまゝよかれ給あしきさ紀とゝのこれ
なるも

## 先帝式部卿親王北方

そゝ大武女
源中納言就ゆくろ乃おとゝ此りのくゝ忍此
はくるり

## 致仕大政大臣北方

かしゑ本此様大納言こうたいのおとゝ乃たるり
にきゝ先ぬ四のきみなり

## 二条尚

ふ君と之り
もとゑ御更衣さ本此まで二月まるいし此みゝ
日なるにきゝ院まさり給ふ年院に御の
うくへなるされ給ふ此きみの ゆへなくし

## 左大臣

今上の御母なり
御きさいしの御事は
右大臣とこゝろ也わかる
左大臣おほ御事をは
うせ給

## 贈皇太后大臣

さう木のまきに及中ね
ゐちたり御は右を大ね
むめかしは左大ねになり
わかるの御事は右大臣は
なりて新帝の御うしろ
うせ給ひて御をうい乃
まゝにかくれ給むりし也と
アのうへかゝりしも人
やそしのおとゝ也いつ

家大ねをいへてこの
御事ゝ申ゐ也

## 藤中納言

そしきしのつ
そきうえの五月にまたくの
ないしのうみの御とこゝろ
ゝしまるし人

## 槇柱姫君

そし同
ワ乃ゐにあるこの御事の上は
なる女は一人うめまうやうを
給て乃ちあつかいの大臣
按察乃大納しとうこゝろし
時ようかゝひそめ給て御事は
小のうへになるそし上ゐるさと
それも給し時は御きのえし
らはこれをまもるなとつゝる
としみし人なるも

## 永香殿女御

まさく御乃女御今上
御たくわかるのまゝに
うせ給へるとしみしるも

## 女御

冷泉院の御くるゝ乃
ときの女御御きさしらよ
みしらるも

## 頭中將

六条院源氏大將と
きこし時世の中

## 左兵衛督

そしゆふかのないしのうえ
もとは中ね事あるえに
兵衛督ゐまきまあしさ
る也

## 左大辨

そし兵衛督におるし事
をうえよそしうるも

## 頭中將

そし兵衛督におるし
もとは侍従事をうえよ
及中ね

まつらいしき事なのきおくしらしのいあまもないしのうみの御つかひにさいりてあくとをしきらしゝ例なくしもなやいひてあくすそらお給しあ月たてしゆしんのかとにまちくれてみそらくさつりし人々

## 冷泉院御

そくゆふ方のないしのうこあまきくの四月に院へさいり給一文女二文の御をゆふきりのおとくの御に宰相乃中ねくり人の女ねときこしし比ころ御くしく人なり

## 尚侍

そく同

そまきくはしのゆづりまてないしのうこまりて入内

## 大臣入道播磨守

もとい近来中ねるもあるう中ねをさりてそりきれかみになりましゝもみなてくこやとへかへりのからむことぬうくおわさ秋きまいが乃国にさるまへるとしをきてかしられろしてありしのうしに年ころもみるまに　あるも源氏の大将を通のうしに志つこ給しころゆゑの御事によりてむくそくさつりしに思ひさるむまあれさひていてきぬ中文のむまれ給しをきぬて此よにのこりおりひなくしが乃うしびさるもくをくぬうき山にいりぬひなく近来の御てよりもひきつくへて三代なりあるとそあらしの入道と

## 明石上

母右中務宮れむまと　あむしあらしのうしてかよひそれそまひて中文をうめ見れるものまれにうれうしけるれて文こへのかるくかつしれさとにもみ給しうをとめれまきに十月に六条院にまとりてみその御うことこゝろきぬのいろを御らせんけるにはしきをはらしこまれうきまひくるしむあらしてもよみ給しへなり

ゐらうそむあり月ちくるわうそかわしひし人なるも

按察大納言

桐壺更衣

いとかなしきハ命なりけりと よみ給ひし人なり桐壺の帝の御時更衣にて源氏をうみたてまつりて みやすんどころとなりて のちさきの更衣 あまりに面うるさく時めき給ひしかは ねたみうけて三位のくらゐをおくらる あまたの御なやみにてかくれ給ひ 唐の楊貴妃のためしにひかれ給ひしも

後に桐壺の更衣のちいさきとの御かたのもとにおもひの川をわたり給へる人なりとしるべし

雲林院律師

更衣の御せうとにて 木乃面きに源氏雲林院を

みまかり給ひし時御かたみなりしを ことひし人源氏のためにそうなるもの

右大臣

藤壺女御

今上の東宮の御時まいり給へるむすめなりあまりにおもくまつりそうしの御ふきをさしまいらせてまつりて女なるをおもひて女二宮をうみたてまつりて 御十四と申すときやまひにてかくれ給ふ

大蔵卿

修理大夫

此二人御のひきかへしにハあらじに

## 大宮六条御息所

## 常陸大守親王

## 禅師

## 逢生女君

よりてまゐつむたれといふあまたゐ為や
とまゐ給ゆへ遂生乃家とし 源氏
志賀よ紀きのとよみ給しゆへなりとう
みなりし紀人こさ国よ志ゐらいてさ
めのいろはさらめ為ろ小ハ柳しと也
きゐつるまとゆまるまれとおもへそと
よしし人

大臣宇治宮北方

ひゆゑゐつ二人とうゐおきて けひめまうを給

常陸守北方

むりしそ中将君とてうちの家ふまゐらひしと小乃方

うを給くのろときくらひ給ろまやまちしのきみを
うゆゑ里家の御宇しきをくれ給まく こて為給ハ
ひさらのまゐらみちの家乃みよ太るしよるあつ
や乃きみといふこれなり
志先ゆひしこそ紀ろうそ国よそぬふ
いらなる法内よ川ろしさそそ小とよみし 人なる

左中辨 弁尼

そくかしそ手乃之とむ乃よみの先社と女之乃
家乃女相侍従とひとけそしなる 行ろ大ねよ
むりしのといひさうせ幸てさ川ろ 人なり
うちのこやおかきみよ法さ幸しさうおかきみ
うせ給てあまになり 法とひのまゐよみなる
きゐそつる杉本のとゆしそやとうきと思ゆ給
そろ

ほとそかれしまとよみし人なり

## 九大将 — 簾京殿女御

梅ゑは長女（さいつ）

此大将梅ゑは
みえくまゑ目
こしけし三乃ち
のおとゝかそのこ
乃大将なり
左右ノあいて
おしくおかつ
なし

## 三位中将 — 以顔上

淺仕のおとゝくし人の女ねときこしろなり
かしいてそきかつしのゑいしのゑ伴なり
あり根のゆうしをとし人なりそこあとは
見てそきのちにゆふかのやうすそ兎の
中ねよあしのなふしのゑんにともなりてものに

とう礼てそう所くなりぬとし十九
そきそれとき乃そうめなりきなとよみし
人なり

## 坟宰相 — 宰相君

ゆのかの
きみのおち

そきかつしのきみの女房二条院に出ゑ給し
しろみしのはなるとうをしれし人

## 中納言右衛門督 — 移蟬尼

ちくの中納言くとてのちいと此をうめに
なるかこひうちになるとくなりしにとも
ないまうをきやの事に京へくるのなる
おるしまれに相とこにとくれて
乃ちまこのかたちのゑみむしのきみ

うつせみをけさうしけるはいとひてあまに
なりのちにかくのうちにいりて二条院
にすみもせむしふのおもむきしはて源氏の心
ふかきことなりけるをおほしやりはてゝるとに
こゝろあまりしかくいうそるもあるふく
く源しこ乃ときにひそいとくらきと紀
川きみとんそしきしとむ
きひくよめり紬卿さしみしくい

## 左馬頭

ことあまことをみとえしぶるも
源氏なる川の御ときさくのときわかくなるより
御むつましくしてちかくつかひつかうまつるを
たすけをきてぬ志かなるよのさなかさるに
すつきこえをそかなしきとなるも
さくなるもすくしのおとこまくして
ひくるへくるしきかまや乃かぶとさき
さえすむのよそをとえくまうむりのとまえ
と那るも

## 伊予守

ほう院かれきせ
給て乃ちひさ
ちふるまいてく
まうせきやよ
のかちれるかや
きよういぬかは
きみのきこえ
れこし

## 紀伊守

源氏乃中将なる川の御ときき人の所あそしめきや
よかろうよなるうきみのきこみあそひうきなるし
人なるも

## 蔵人左近将監

源氏の右大将斎院の御まへひきまうし日一員
そうなく人なるを源氏の御まへかとむすめ給し
時殿上の御まつれいさそはて源氏御供を
そかしさひまそはいる文とへかるを給ひのみ見
をかくてまくへとゆきひのせしと見えてるを
給まのきはよかしかるを給ひかつのはるひさむ
まゝへるを源氏なうされ給ひくにて須磨の
御きよ北院の御ともくまいりなるへきを志ほ

そしてまゐらせ給ひよ御むかへにとりしく
ひきはしてまゐらせとしてのうち給ひ給へ候
笑前のこゝろうきかしよみしくるを

## 蔵人少將妻

のきえ給ひ

くけとみ乃きみのまゝむまゐきのうみひとりさ
まむしうつとみのとぬるのよあひ給ひ人るを
我のうちあしたれのよくしく人の少將のめなる
とわしたれ乃御うとゝきこゝろ乃きえのおき給
むれてそれにそといえれしくるを
なうそ志ゆかといひしひとなり

## 桜察大納言

紫と母

そくあるし
ちゝきみくちにそそ[illegible]しとゆしく
ことゝ給ひ志をかんひをとけを
志てかくれ給ひしうそいう給ひ人の志をさ
にゝ兵部卿宮ましのひとかよひ給ひ
給ひきみ二人まゐをきてかくれ給ひき
をひそしむあるうとしぬわらくさ
給ひしゆ給ひそきまてむかれなと
よみしくや

## 桜察大納言

五節君

ゆゑうれおとゝの
三条の上乃すし
ちゝ志きく院
勅別当

をとゝめ給ひきまゐ五節のきひ志めにさいりてや
そしてきみしかうそしむまゐ
なるを

## 参議藤原惟光

[illegible]

## 兵衛佐

[illegible]

## 山阿闍梨

[illegible]

## 藤典侍

[illegible]

## 少將令母

[illegible]

## 参議宮内卿

## 明石乳母

[illegible]

ころ此うらよあとにへかやそとよみし
人なるも

大宰大貳

源氏の中国のうちに
をそれをしらぬ法にて
よるも乃ゆるさく
御法にいそれ事
しへ

筑前守

むらしいかけの御さしにて義人まるして
かつら元給ひきちら大貳乃法にいそれ事
さいりそなしへ

五節君

源氏あひ見給ひし人なるもちら此大貳
まいりて中国の事に乃ゆる
そ母ゆるあらうきみしなるやと
とみし人なるも

前播磨守

わらむしさ紀に
そうさ此うみ
さみ此

左大辨義猜

わらむしさ紀にくらんとまてかゆり給ふ事
あらし此国きに女細さとこゆ身を法にの
さきにゆきいの事を本衣をきたる
おとめ乃まゆに古中弁にてあのうちを
うなしなるも今はむ川さしてつひてよき
よこれこうきて いえれしちら乃かたにくしてく
そなたなるふあらしのとにあしおとなるへ
うりそそのよ此ともなし様と母とよみし人へ

常陸州

もとそみちの
に乃うみあるか
やのきみのまし
なく

藏人式部憲

はきのかれそしあるや乃まさにうち此御法にいそ
白髪にへさいりしなるし人へ

藏人右近將監

[illegible]

童

[illegible]

左中將書

[illegible]

源女納言書

讃岐守書

[illegible]

豊後介

[illegible]

大宰小貳

[illegible]

のめれと乃をとく
そきたる此姫きみ
四ようしも給しは
そして以て（今ゝ家
仕ゝて乃ゆゝむと
そし時やまひはてい
てうきぬそのとき姫きこ
十えうよるるを給をえ
そうそそてきつる御
るしきことにそて
かきへて家よおて
そそてきつるへきおし
こと人よいひとき
乃

姫きみよくしてのかゝ姫君二年歳よりとうる給
てそのかゝるを乃さむをしうけるぬんとられしを
司よくはるをてやまきかとよいていうてさ
ふらしけりむしのひゆしとあるも

次郎

三郎
この二人はうしにめるとほのとしあるゆきよ
それい家へ乃ゆゝむおうなくてそうをは
きるも服後国のたゞ堅にそうされてひめきみ事
そうしうむとかゝ下しみし

姉御許
これも以くよ此みはきて乃ゆゝれ

兵衛君
これいあてきといひきひめきみよくして
乃ゆゝ

帥中納言

少将上
そうやるき

蔵人辨
ほうれ給をるもそうに ほうといえれ
ゆる

参川守
くらむ人かゝ主ほうて見うはの
うみよるうさうきのほきにあるも

少納言

左京大夫

阿闍梨

さ京大夫うなまたあしあしさ京乃あまかし
いたりそしあるなり

左京屋

おなかかやまの文まさかぬきもしれこよ
して四文よさいしをしへ

藤大納言

源三位前上

一品宮宣旨

帥中納言上

源三位今上

中納言君

前和泉守

わかなのまれよ源氏二条乃内侍のうみまあひ給ひ御つぶ
きしへ

そのまちともしぬ人

中納言宮

かなかちぬられ乃中ぬときこしはむまあ
の姫きみまをし給かるをしへ

上野宮

梅枝右衛

竹河左兵

左大将

右大将

大納言

左兵衛督

中宮大夫

右馬頭

左兵衛督

参議修理大夫

兵衛督　源氏ろくの命乃日御車のしりに牛ぬとのせしへ

民部卿　中ぬきりのをとくあむかのうちあきれ法をしれ
三時左大將と云はさのひしへ

大宰大貳　もと妻頃よりもとのまさに大貳になるまてくらす
はしらむかやのうちかゝる乃御たのおとく

右大辨　きりつかの御さは源氏の御しらみそらて
二面人はあつりしへとしへてかつしれ御あそひは
日うの御はさのひしなる御人か左院の御さきは
しくしくにうさつりうおとるいうろ人といふり
雲のうちすゝかれ御はてくあ中の月
いのの中まあ御うくあむとよみしへ人なるを

左大弁　はさくろむの女三れ文乃御あのと乃せうかて
ひあうやの御車六条院は牛むの御にしき
川しこへ中三人

右中辨　中ぬきりのおとくあむかのうちあきれ法にし日
作文の御師をしへ

蔵人弁　かつしの命乃日内の御つかいまてまいし御しへ
月のはむうのとら明るさとるれいと御せそ
中しへ人なるを

頭中將　松ゆ命は御ろ御は乃うとら御しへ
うさ雲は二えしまひし月の中れはみかり
世そ乃と申うへきとよみしへ人なるを

源中將　二条乃宮御あ若御きみはさきしあいひしへ

修理大夫 源興行ときく あひし人

小師尼智中將 あさしぬ風になびく風 をこれてしとよみし人

左近少將 命あるもはまさくるむ身 御かうへ思ひてまつ 稱し御つひをし人

中文高 女三宮の御りきは 平文よりおつらいき

馬頭 左院位の御時の侍ひ人 あまりの志れさくめのそも これひとりやいきみかうき ふしとよみし人

馬頭 かきうの文 君のまゝにて 我をうせ

兵部大輔 たゆふの命あらしこつむ 君のまゝにくえしる

民部大輔 うつ我 中務宮のまゝにくるまつ さらせまうし人

式部大輔

文章轉士 いと若二人ゆかうの入宮のぬ 作文よりし人 文章轉士頭号

大内記 ゆかうの我おとゝ乃むかし我御師姫ゝ我を 御ゆかうせといへり

藏人式部丞 左院位の御時乃上位あり 御のおとゝの 御のけとり 御なるのあるまひ志をきゝゆかれよひ 御なるのあやるさといひし人なり

藏人右衛門尉 乃行幸乃日 勅役にてあむしの 御のしへ さらりし人

馬助 乃ちきの御ゆかうの御ゆかうのおとゝ ゆかうとき 御ゆかうし 御ゆかうし 御ゆかうし 御ゆかうし

筑前守 大輔命婦の御ゆかうの 御ゆかうしの御ゆかうとき

左近大夫 ゆかうの大夫乃いと人をのへ 御とも志をゆかう

右近大夫 かゝりひとも 志賀さし人

大和守 一条家純女さし女ねのきみ乃ある

大蔵大輔 かゝり家大和乃いゑ人 御つかひとし人

紀伊守 これそ大和乃いゑ人をあつあきをいそいらしいの きみとのよまむしろ大和のをかしる事き 事留き清かゝるし人

時方 まかしのひや姉まゐしの家のいゑ人ゑんやてならい 乃きみよかよひ給しころつ移す御かひとし人

同備守 おなしく女人ときかゝりとらうきみねのきみ そてうゑれむくよをそせし いゑのぬし

大夫監 清ケ純ひこの国れ人たまつし乃きみのきしやく きみよとしこころ有ふ国つしけふかゝこの うゑ侍をてちゝゑんとよみし人なるを

先帝中宮 くまゐの女院のそ きるつ有のまゝ給

前斎院 あかいまとうさせ給へ家 よしよときみまゐしなるを

霊糸殿女御 右院女御にあるさしのあれ 一条御息所 まさく院後の御とき女御とらそのあとしゆゑうの事はをてこのあるハ柳のめまそ事後 なめしかしよみし人なるを

花散里上 れひかむてんの女御乃をとく三家なるを 右院の御とき女御のあるをねそ当むしのみそめ 給へりきるのちよハ三条院のなつの御をと きこゑ四ゆゑうのおとくれやしるいそ とゆんそしみそやあらぬひかり御とよこし人を

桐壺典侍 三代の御門に御人さら人女官家の御事 そうし いそ志人なるを

源典侍

平典侍　侍従典侍

大江典侍　祈宮女別堂

祈院宣旨

春宮宣旨　辨内侍

靭負命婦

王命婦

中将命婦　兵衛命婦

女将命婦

中納言君

中務君

中将君 たゞきこの女ぬう

女楊御許 おなし女ぬうくつをみのとぬきのあら月をきたしといえれし人

中将君 六条御息所の女ぬう花よこうゆとよみ人なり

右近 中の方の女ぬう女きみうきてのちきしのけうとよさぬらいき

女納言君 むらさきの上めれと

女将君 長恵法むの女ぬう

宰相 中納言 中務 いと二人あらつ方の女ぬう中宮三条きりを給し時きむしにあいしらいきてさつらし人

宰相君 おなら月ぬきれ女ぬう当むしの

中将君 あさゝ方の家れ女ぬう月うんなむにをえ時

宮相君

中務 いと二条院に御ひしのちはむらさきのうえの御かたにはたらさふいき

辨君 むらさきの上れ女ぬう女御をかむ中宮上にちれ乃もられこれ見ほうきてせしとりつきし人

中将君 むらさきの上乃女ぬううつを給て法きのとしの四月乃さ何事の日ひらねしに面としつまれ当むしきらより給つるにあふひのうたりしるゆえてをみのかさしれるさへ上にしかしまひとるなり

女将君 あしの女ぬうかつれさとよりひんきみむくに礼しに御たらもらて御事れ来るに

小侍従 三条のうえの弟のと

五節君 あふこのきみと

大夫君 松ヶ枝の御前の女ゑらあつかのきみの人 中納言君 おるしきぬゑらあつかのきみのまゐりかきしく

辨君 幸国ゑらの女ゑら 小侍従 二条家の女ゑらかしたまれ ひらゑら御ゑらの

重君 中将君 ひきくろ御ゑらの女ゑらもとれと ふるきくくら給しハそのかたの女ゑらまてと御ゑらしく

桜案君 二条家の女ゑら 源氏中ねとき ものいひしく 小女将君 一条家の女ゑら大和守 かいもくと人ゑらまへき やまのしろ之とことし 人ゑら

右近君 松ヶ枝の女ゑら 中納言君 むしさきのとの女ゑらと こきて給てのち御まへよ ちくし御いて中ねきみと おもうきしく

大夫君 きまうしの姫君とふるまそれいとをそれし 時うらかゝ女ゑら

馴寸 松ヶ枝時をうとさて人 中将君 おるしきぬゑらくん人 少将かゝひしく

大貳君 宁治のゑらはきみの女房姫君二条院へむかへられ給し時ゑきしきせること申しよみしく人ゑら

桜案君 うゑら大将の見人 みるまゐるあるむる 大輔君 うち御中の君の女ゑら二条院まて おとるしくゆしく

右近君 松ヶ枝女ゑら大輔ゑむまゑあつさゆのきみ中ねの御もとく さいりて一あるしのひまて給しところ者て文をとるも ようなくしにさいりあのてさ御をさきしく人ゑるも

女将君 おなし 女ゑう

左近 うきふねの女ゑう

侍従 おなし 紀女房姫君三条の北をひかし[illegible]にたゐ[illegible]
くして おなせし 御事 此事ふのりし人 うへうを給
てのち一条 安へさいうてゆひき

小宰相 あらし 此一条 安女ゑう たゐのおもひ人
うこれ[illegible]ころハ人をそれ[illegible]をしひし人なり

辨御許 おなし 女房 をひねして なをところ見よかし
大ぬよいひし人なるをかゝろふよみしなる

あてき あらひのものにこゝろうへうくれ[illegible]
[illegible]あとめくろくそゆ[illegible]をしり人なり

中将君 あらし 此中宮女ゑう
なまそあしるれとよみし人なる

掘察大納言後家尼 きうつかの[illegible]乃そ
[illegible]のうさのとしふをぬ
[illegible]くてのよ人とよみし人

兵衛督後家尼 てゆらいのうえやしるゆし人よりの
そういのいりくしをのあそ
ぬきの[illegible]むりし此とも[illegible]をれてかくりしかとに
[illegible]めきましもよみし人なる

小卿大尼 そのいりいのをのしあり此そ

大貳北方 [illegible]のきみのそかゆのをそ
さそいてくらし人

明石尼 かつしのなりつさ此[illegible]のむ[illegible]としろあり此
くしよ[illegible]をおもむ[illegible]

のかみあひ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]

小武妻　[illegible]

大武乳母　[illegible]

北山僧都　[illegible]

横川僧都　[illegible]

小野僧都　[illegible]

護持僧都　冷泉院のこうそうへし[illegible]

宇治律師　うちの文の[illegible]

北山上人　[illegible]

御導師

[illegible]

妙法寺別當

[illegible]

無名

一人

あき殿のぬらるにむまのゆいかいきるを
[illegible]
[illegible]

一人

[illegible]

一人

おるしきぬかうちに[illegible]
[illegible]
[illegible]

一人

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一人

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一人

やとり[illegible]
[illegible]

三人

一人

一人

一人

きぬの色を

そいとのみかと此をうし一えむのあむしまてみめうちまくれ
給つる後ひろうそしまゐ国とへわらうろまあまそすつゝ
よりさしむしさ紀三きみのるよせてむしさきのうへを
あがし大二乃そつまうほき給しゆ此国のうしまうこ
給わら給よそこへ国を国とにおりの母なくていうつま
かきいうせうまあらはをいうつ又さるを音れくて和母やけ
をさくしにつきしへ四代はきやまともるとしゆら給てお
のるさけをししさむ年よそしのうちまれとこ女の
ふるまいをあらしこ四代のあいまさみもさんも
をぬるとゆのをるもれよそくんたむのみちさいちもおもい
き時まほきてはとしさあるのまよせてをしへ此れし
いふとなし

十原式部ハ廻前のこゝみ藤原乃平あさきう
一条院の御時人上東門院女房や